

■平成26年度第4回（第234回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 平成26年7月23日（水） 午前11時00分～午前11時45分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、遠藤副市長、木下副市長、本間副市長、水道事業管理者、教育長、技監、都市戦略本部長、政策局長、総務局長、財政局長、総合政策監、市民・スポーツ文化局長

【議 題】（2）（仮称）盆栽アカデミーの方向性について

< 提 案 説 明 >

（仮称）盆栽アカデミーの方向性について、市民・スポーツ文化局から次のような説明があった。

- ・ （仮称）盆栽アカデミーは、一言で表現すると「国内外の方が、盆栽に関する知識と技術を体系的に学べる学習機関」を創り出す新たな取組であり、今年度、基本構想・基本計画を策定することとしている。そのため、取組の方向性について諮るものである。
- ・ （仮称）盆栽アカデミーの各計画における位置付けとしては、さいたま市総合振興計画次期実施計画をはじめ、しあわせ倍増プラン2013、さいたま市成長戦略、さいたま市文化芸術都市創造計画の4つの計画に位置付けられている。
- ・ これらの計画の他、さいたま市盆栽公苑構想基本計画や大宮盆栽美術館振興アクションプランに、盆栽文化や技術の継承・普及のための学習研修機能の必要性や、アカデミーを中心とした、盆栽村と連携したまちづくりや盆栽文化の普及についての記載がある。
- ・ 大宮盆栽をめぐる現状と課題としては、昨年度、盆栽園主や有識者に、現在の盆栽事情についてのヒアリング調査を実施した。
- ・ その結果、「産業としての発展と後継者育成が難しい環境である事」、「国内においては、若い世代の興味の高まりによる新たな愛好者増加の見込みがある事」や「海外においては、盆栽ブームによって、愛好家の数は日本を上回っている事」が見えてきた。
- ・ ヒアリング調査の状況は次のとおり。
- ・ 大宮盆栽は、1970年の大阪万博での日本庭園における盆栽展示で世界に知られるようになった。今では世界一の盆栽ブランドとして認知されつつあり、平成29年には第8回世界盆栽大会を開催する事が決定している。
- ・ しかし、大宮盆栽村では、都市化に伴う地価高騰やライフスタイルの変化など様々な環境変化をはじめ、園主の高齢化、産業としての活力低下、国内愛好家の減少などから後継者育成が厳しい状況となっており、20園以上あった盆栽園が現在では6園

に減少している状態。

- ・ 一方、一部の盆栽園では新たな盆栽ファン、特に若い方々を対象とした講習が行われている。また、海外研修生の受け入れを行っている盆栽園もあるが、いずれも限定的なもので、大きな潮流とはなっておらず、盆栽園全体の先細り感は否めない。
- ・ 国内では、愛好家の高齢化と後継者の減少という状況があり、親が遺した盆栽を継承するための維持・管理手法を求める声が多く寄せられているが、大宮盆栽美術館及び大宮盆栽村の盆栽園では、これらの声に十分に応え、指導できる余力を持ち合わせていない。
- ・ 以上のことから、本物を見て、本質を知る機会が少なく、盆栽が持つ文化や精神性への希求に対し応えられていない状況となっている。
- ・ 大宮盆栽美術館の取組の現状としては、平成 22 年の開館以来、「盆栽に関する研究センター」、「さいたま市の新しい観光拠点」、「盆栽産業活性化の一助」という 3 つの方針を立てて活動を行ってきた。
- ・ 主な事業の取り組みは、美術館の研究発表の場である「展覧会事業」、研究成果活用の場である「普及事業」、国内外への広報、特に海外の盆栽愛好者への「海外広報」という 3 点になる。
- ・ 以上、大宮盆栽をめぐる現状・課題と大宮盆栽美術館の取組を踏まえると、盆栽技術・学術の進展を求める声は国内外にあり、その受け皿が求められているものの、そのニーズについて、定量的な把握が十分ではないというのが現状である。
- ・ そのため、(仮称)盆栽アカデミーは、大宮盆栽美術館の内部組織としてスタートし、短期間の講座を開催しつつ、受講応募者の動向を確認しながら学習レベル、期間、内容を段階的に高め、盆栽専門の学習機関を目指す方向で進めることとしたい。
- ・ 平成 29 年度の世界盆栽大会が開催されるまでの予定としては、平成 26 年度に基本構想・基本計画の策定を行う。
- ・ また、平成 28 年までを準備期間と位置づけ、カリキュラム・講師・教本などの準備をしつつ、やや専門性の高い講座を実施する中で受講者のニーズや課題の把握に努め、合わせて PR を進める。
- ・ 平成 28 年度末に(仮称)盆栽アカデミーを開設した後は、講座の期間、カリキュラム等の内容を充実させ、需要の掘り起こしに努めることとする。
- ・ (仮称)盆栽アカデミーの目指す姿については、「盆栽に関する知識と技術を体系的に学ぶ盆栽専門の学習機関」を考えている。
- ・ 国内では、盆栽に関する知識や技術を体系的に学べる場がないことが盆栽愛好家減少の一因とも考えられる。
- ・ そのため、従来は、趣味の対象という印象を持たれていた盆栽を、日本を代表する伝統文化の一つとして、知識と技術を体系的かつ専門的に学べる機関としての役割を担い、盆栽に関心を持つ人や携わる人を増やしていくこととする。
- ・ 受講対象者は、盆栽従事者や愛好家など盆栽を専門的に学ぼうとする方を想定しており、カリキュラムも相応のものを用意する必要があると考えている。
- ・ 大宮盆栽美術館と(仮称)盆栽アカデミーの関係としては、大宮盆栽美術館での学術面での調査・研究成果を活かして実施している普及事業を、(仮称)盆栽アカデミーで盆栽技術と学術の両面を体系的に学べるよう発展させることとしている。

- ・ (仮称) 盆栽アカデミーを継続していく中で、カリキュラム等の充実をはじめ講師陣の拡充や受講者の増加を段階的に図っていく。
- ・ その結果として、(仮称) 盆栽アカデミーの受講者から、将来的には盆栽の指導者をはじめ、市域の盆栽文化振興を担う人材、さらには盆栽関連産業に従事する人材の輩出も視野に入ってくると考えている。
- ・ 将来に渡っての課題としては、開設時においては、大宮盆栽美術館の内部組織としてスタートし、大宮盆栽美術館スタッフが(仮称) 盆栽アカデミーのスタッフを兼任することとしているが、受け入れ体制やカリキュラムなど内容の充実を進めるためには、(仮称) 盆栽アカデミーの運営体制についての検討が必要になってくるものと考えている。
- ・ また、カリキュラムや教材の多様化、研究者や指導者との協力体制などを体系的に構築していく必要がある。
- ・ (仮称) 盆栽アカデミーでは、講義と実技講習を並行して実施する予定で、当面は大宮盆栽美術館及び周辺の公共施設を活用して実施することとしている。
- ・ しかし、講座期間の長期化や回数の増加、講座内容の拡充により、将来的には講義・実技講習の場をはじめ、教材で使用するための盆栽の培養や保管の場所を新たに確保する必要が生じるものと考えている。
- ・ これらの内容や課題については、今年度の基本構想・基本計画において十分検討した上で方向づけを行っていく。

< 意見等 >

- ・ 今回の議論の趣旨は、(仮称) 盆栽アカデミーの進め方と当面のスケジュールについての2つという認識で良いか。
- ご指摘のとおり。
- ・ 大宮盆栽美術館の内部組織として立ち上げるということだが、将来的には運営を外部委託することも考えているのか。
- 詳細についてはまだ検討していないが、いずれにしても大宮盆栽美術館だけでは内容の充実をはかることが困難になることが想定されるため、今後検討していくこととしたい。
- ・ (仮称) 盆栽アカデミーが担う役割は普及活動の面だけなのか、それとも産業育成の面も併せ持つのか。
- 普及活動を基本とするが、将来的には盆栽の指導者をはじめ、市域の盆栽文化振興を担う人材、さらには盆栽関連産業に従事する人材の輩出ができればと考えている。
- ・ 今年度、基本構想及び基本計画を策定することのことだが、骨子段階で都市経営戦略会議に諮るという認識で良いか。
- ご指摘のとおり。
- ・ 短期的な講座であれば大宮盆栽美術館で実施すれば良いのではないか。
- 盆栽に係る専門の学問がないため、体系化するためには専門の組織で整理していく必要があると考えている。
- ・ 盆栽は技術指導が中心ではないのか。
- 大宮盆栽村の盆栽園においても、技術だけではなく盆栽に係る歴史など学術的な部

分を口伝している。こういった部分を体系化したいと考えている。また、技術についても各盆栽園で異なっているため、これも体系化できればと考えている。

- ・ 作成するカリキュラムはさいたま市に帰属するという認識で良いか。
- ご指摘のとおり。
- ・ そのカリキュラムを使用し、運営を民間に委託するということは考えられないか。
- 民間委託化について検討することは可能だが、現時点で民間委託を進めるという結論は出せないとする。いずれにしても、まずは大宮盆栽美術館の内部組織として立ち上げ、運営状況を見て判断することになると思われる。
- ・ 盆栽には国家資格のようなものはないと思うが、(仮称)盆栽アカデミーの受講者に対し修了証のようなものを発行する考えはあるのか。
- 現時点では修了証を発行できるまでの枠組みができていないが、今後、発行できるよう検討していきたい。
- ・ 現状、盆栽は徒弟制度だが、(仮称)盆栽アカデミーが目指す方向と競合してしまうことはないのか。
- 各盆栽園の園主と話したところ、従来の徒弟制度だけでは先細りを止めることはできないという共通認識があるため、問題ないと考えている。
- ・ 海外を意識することは有意義だが、そのためには提供する講座のレベルを高める必要があるのではないか。
- 御指摘のとおり。できるだけ内容を充実させていきたいと考えている。
- ・ 国内では前例のない取組となる。先細りとなっている盆栽の文化・技術を「大宮」で保存して広げていくという思いが必要だろう。
- 御指摘のとおり。
- ・ 技術や学術の体系化について、国内外の機関や団体と連携し国内外で認められるようにすべきではないか。
- 各機関等との連携を進めることとする。
- ・ 盆栽をテーマとしたアカデミー的なものを作り、拠点的な機能を果たすという事例は、国内でも前例がないことから、価値が高い。盆栽そのものが日本の文化であり、その文化伝統を継承するための技術、スタッフ、ノウハウが大宮にあるという体制を整えることができれば、例えば、海外に出ていく日本技術者が、大宮から来たと言えば、その技術レベルを認めてもらえるようになる。是非、格調高く進めていただきたい。
- 御指摘のとおり進めていきたいと考えている。

< 結果 >

- ・ 市民・スポーツ文化局発議の、(仮称)盆栽アカデミーの方向性については、原案のとおり了承する。

< 会議資料 >

(資料) (仮称)盆栽アカデミーの方向性について